

Q.3

2023年度入試の傾向は？ 今後、どんな動向になるの？

Q.3に答えて
いただいたのは…



富士学院 理事長
坂本友寛さん

2023年度は志願者数・受験者数が微増も全体的には減少傾向

2023年度の大学入試では、

大学入学共通テスト全体の志願者数は約5000人減少した前年度からさらに約1万8000人近くも減少しましたが、医学部受験においては国公立大学、私立大学ともに微増しました。

具体的な数字で見ますと、国立大学の医学部における前期・後期合わせた志願者数は2万3510人と、前年度に比べ1168人増え、受験者数も591人増えました。

また、私立大学医学部の一般選抜および共通テスト利用選抜を合わせた志願者数は9万4631人と、前年度より4323人増え、

受験者数も4571人多い8万7422人となりました。増加分のうち、一般選抜は1491人、共通テスト利用選抜は3080人でした。

このような結果となった背景の一つには、医学部人気の高さはもちろんあるのですが、大学入学共通テストの易化による影響も大きいとみています。国公立大学に関していえば、共通テストの受験は必須ですので、出願は点数によって左右される部分が大きく、高得点を取った受験生による出願が多かったでしょう。

ただ、私立大学に関しては何校でも受験が可能であるため、受験者数が増えたというより、1人の受験校が増えたと考えられます。コロナ禍による制限の影響が小さかった2023年度入試では、受

験校を増やした学生が多かったのではないのでしょうか。私立大学の志願者数は延べ人数であるため、実数として志願者数が増えたとはいえません。むしろ、全体の実数でいえば、医学部の受験者数は減少傾向にあるのが実情です。

18歳人口の減少と少子化の影響によるところもありますが、受験生の安定志向によって現役指向が増え、浪人生が減少していることも要因として挙げられます。これは、先行き不透明な現代において早く大学に進学したいという思いや、物価高騰が続く中で家庭の経済状況が悪化し、浪人をためらう学生が多いからです。

こうした受験者数の減少傾向によって、医学部合格のチャンスは以前よりはるかに広がっているのです。

「地域枠」入試の活用によって合格のチャンスはさらに広がる

医学部合格のチャンスをさらに広げる制度として、ぜひおさえておきたいのが「地域枠」入試です。地域枠とは、その地域の医療活性化のために設けられた入試区分で、ほとんどの場合は卒業後に指定の地域や医療機関に従事することが条件となります。定められた地域の出身者であることが出願要件に含まれる場合もありますが、一般選抜では一般枠と併用して出願が可能な大学もあります。もともと地域枠制度は厚生労働省によって、地方の医師不足や診療科の偏在問題を解消するために定められました。また、修学資金などで金銭面をサポートすることで、経済的に

私立大学医学部 一般・共通テスト
利用入試の志願者数と実質倍率の推移



出典◎富士学院「医学部入試概況」 ※「2023年度入試」は、2023年1~3月実施の入試。

医学部への進学が難しい学生を後押しするという目的もあり、修学金は卒業後に一定期間、その地域の指定医療機関に勤務することで返済が免除されます。ただ注意しておきたいのは、修学資金がセツトになっている地域枠入試で進学すると、卒業後の一定期間は決められた地域に勤務するといった義務が生じることです。しかし、卒

業後の条件がある分、選考の難易度(偏差値、合格最低点など)は、一般枠よりも低い傾向にあります。よって、一般枠での入学が難しい学生であっても地域枠であれば合格しやすいというメリットもでてきます。卒業後の進路が自由に選べる一般枠と卒業後条件がある地域枠、どちらで出願するのかが大きな選択となるでしょう。

共通テスト対策のポイント「本質」の理解と時間の厳守

2023年度の大学入学共通テストは、前年度の試験問題が難化し、平均点が下がったことの反動によって易化しました。2024年度は4回目ということもあり、難易度は安定し、大きく変わることはないのではないかとみています。ただ、理科に関していえば、物理に対して生物の難易度が高く、2年連続で平均点に大きな差が生じたため、2024年度は生物が易化するのではないかとみています。

共通テスト本番に向けて、ぜひ訓練してほしいことは「本質を理解すること」です。思考力・判断力・表現力を問う傾向にある共通テストにおいて、暗記一辺倒では対応しきれません。どんなプロセスを経て、どうしてその答えになるのかという問題の「本質」をしっかり理解することが大切です。

これは付け焼き刃の勉強では身につけませんので、日頃から思考することを常に意識して学習するとともに、わからない問題があったら、きちんと質問して一つずつ着実にクリアしていくことを心がけるようにしましょう。

また、受験本番で確実に結果を出すために「時間を守る」ことも普段の学習から意識しましょう。共通テストは、どの教科でも全体的に問題量が多くなっています。解答時間やペース配分を間違えずに解けるはずだった問題を取りこぼすことのないようにするために、制限時間の中で解答を導く訓練をしていきましょう。

今後、医学部入試は「一般枠」と「地域枠」で難易度が分化 出願先が合格を左右する

今後さらに地域枠が拡大するにつれ、地域枠での選考ハードルが下がっていく一方、一般枠での選考はますます熾烈な競争となり、将来の医学部受験は一般枠と地域枠の2種類に分化されていくのではないかと予想しています。

そうなったとき、「どんな医師になりたいのか」「どんなキャリアをめざすのか」といった、なりたい医師像を明確にしつつ、自分の学力の現状を考慮したうえで、どの募集枠で出願をするのか、大学ごとの出題傾向なども踏まえ、どの大学が自分にとって一番良いのかなどのデータ分析および戦略的思考が問われます。医学部受験を突破するいちばんのカギは募集枠と出願先をよく見定めることです。正しい情報を集め、正しく判断できる受験生が医学部合格のチャンスをつかめるでしょう。

良医に必要な人間力を鍛える指導と 生徒第一の環境が生む抜群の合格力

在籍者の約6割が毎年医学部医学科に最終合格するという圧倒的な合格力を誇る富士学院。高い実績を生み出すカギは、学力プラス人間力を伸ばす指導方針にあるようです。



教育の原点に立脚した 「教える」教育を実践

富士学院の2023年度の医学部医学科の合格率は、医学科専願者の58%、国公立については国立専願者の78%以上。一次合格を含まない最終合格者の数字で、かつ在籍者に対する合格者の実数の割合です。いかに高い合格率



医学部現役合格を目指すサポートの一環として、全国の高等学校と連携し「医学部入試研究会」や「校内医学部セミナー」なども行われています。

績であるかがうかがえます。しかも私立専願コースなら、入学するのに成績条件すらありません。それでもこれだけの合格力が生み出せる背景には、「教える」という学院のモットーがあります。「医学部合格には、本気で医師になる覚悟を決め、学習面・生活面等の改善点を明確にして、克服していくことが重要です」と村田慎一学院長は語ります。

医師になる覚悟を促すため、面接指導は5月から行います。新聞記事をテーマに、要点をまとめた「自分なりに深めた思索」を書いたりする課題を毎日実施。言語化し、表現する力を養います。また、後述するチーム指導のなかで、繰り返し自らの学びを振り返り、必要な学習を自ら進めていく

ことも求められます。こうした日々、医師を目指す受験生としての人間性を磨いていくことが、学習の土台となるのです。

8名以下の少人数クラスで 担任・担当制のチーム指導

学力を伸ばす工夫もさまざまです。科目ごとに学力別のクラス編成をとり、1クラスは8人以下の少人数制。個人指導の受講も可能です。

最大の特徴はチーム指導です。どの生徒も科目ごとにクラスが異なり、原則としてその生徒を教えている科目の講師が担任となります。そして、各科目の講師陣と担任講師、担当教務がチームを組み、連携して生徒を指導します。

「チーム会議を定期的開催し、その生徒の現状や課題を共有する

ことで、科目間の課題調整などを行うこともあります。全員が同じ方向を向いて指導できる点は、大きな強みです」（村田学院長）

1週間ごとに授業内容の定着度を確認できるテストを行うほか、確実に質問できる体制も構築。非常勤講師であっても授業後に生徒の質問に答える時間を確保しており、夜10時までの自習時間中も交代で担当講師が待機するなど、きめ細かなフォローを行っています。

体調面の気遣いも徹底しています。長時間の勉強を乗り切れるよう、柔道整復師が各校舎を巡回して、体のケアを行っているほか、スポーツ等を行うリフレッシュタイムもカリキュラムに組み込んでいます。また、各校舎とも専属契約した食堂を備え、管理栄養士の



医学部受験 富士学院
学院長
村田慎一さん

合格者メッセージ



花房真也さん
東京医科大学/1年
[合格大学]
東京医科大学・埼玉医科大学・
岩手医科大学・杏林大学



なぜ医師になりたいのか 常に自問自答を

選んだきっかけ

高校の先生の紹介で始めた推薦入試対策です。不安が無くなるまで何度も面接や小論文の指導を丁寧にしてくださいだったので、ここでの浪人を決めました。

オススメしたい点

沢山ありますが、一番は先生との距離が近いことです。質問がしやすく、分からないことを分からないままにせず、すぐにつぶせたのが良かったです。

苦労したこと

自習時間をいかに厳しく効率的に過ごせるか、自分との戦いでした。苦しい時は、なぜ医学部に行きたいのか思い返すことで踏ん張ることが出来ました。

受験生へのメッセージ

医学部に進みたいなら、苦しい状況でも努力し続ける覚悟が必要です。なぜ医師になりたいのかを常に自問自答し、最後まで諦めずに頑張ってください。

考えた栄養バランスの良い食事を毎日3食提供しています。「合格に必要なことはすべてやる」という強い思いがあるからできる。ことで、こうした姿勢が実績につながっているのだと思います」（村田学院長）

医学部合格のためには 予備校選びが特に重要

最後に、村田学院長に予備校選びのポイントを伺いました。「合格実績は大きなカギになりますが、数字は一人歩きしがちです。年度ごとの在籍者数と、最終合格者数の実数を確認することをお勧めします。また学費に関しては、後々講習等で発生するケースも含め、年間総額とその根拠もチェックしておくといでしょう。そして講師に質問できる時間がどれくらい確保されているかも重要です。いずれにせよパンフレットやHPの資料だけでなく、必ず足を運び、学習環境のチェックと同時に、疑問点を細かく質問し、自分に合った予備校を選択することが、合格に近づく第一歩です」

合格力アップの秘密

8名以下の科目別・学力別少人数クラス



授業中にも質問ができる双方向性の授業で学力UPが図れる。

講師陣と職員がチームを組んで連携指導



生徒一人ひとりに担任講師と担当教務が付き、指導する各科目の講師と共に「チーム」をつくり、課題点や指導方針を共有し、指導を行う。

専用食堂と男女別の専用寮・提携寮を完備



全校舎に男女別の専用寮・提携寮があり、通学生も利用可能な学院専用食堂では温かくて美味しい食事を毎日3食提供。

空いている講師にはいつでも質問可能



毎日の夜学習には常時講師が在席。また空いている講師にはいつでも質問ができ、受験期には受験をする大学の最寄り校舎を利用可能。

